



## 2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年2月2日

上場取引所 東 名

上場会社名 株式会社フジインコーポレーテッド

コード番号 5384 URL <https://www.fujimiinc.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 関 敬史

問合せ先責任者 (役職名) 財務本部副本部長 (氏名) 川島 敏裕 TEL 052-503-8181

四半期報告書提出予定日 2022年2月4日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	38,654	24.2	9,473	59.5	9,749	64.4	7,270	62.1
2021年3月期第3四半期	31,111	8.9	5,939	32.9	5,932	29.7	4,485	34.6

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 8,017百万円 (76.5%) 2021年3月期第3四半期 4,543百万円 (37.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	294.09	ー
2021年3月期第3四半期	181.44	ー

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	71,674	60,353	84.2	2,441.28
2021年3月期	65,773	56,088	85.3	2,268.87

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 60,353百万円 2021年3月期 56,088百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	ー	50.00	ー	65.00	115.00
2022年3月期	ー	85.00	ー		
2022年3月期（予想）				95.00	180.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

### 3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51,500	22.7	12,000	57.1	12,200	58.2	9,100	62.3	368.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、7ページ「2. 四半期連結財務諸表 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期3Q	28,699,500株	2021年3月期	28,699,500株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	3,977,290株	2021年3月期	3,978,451株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期3Q	24,721,747株	2021年3月期3Q	24,720,790株

(注) 当社は、業績連動型株式報酬制度 株式給付信託（BBT）及び株式給付信託（J-E SOP）を導入しており、当該信託に残存する当社株式を、期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式数に含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(会計方針の変更) .....	7
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の当社グループを取り巻く環境は、ワクチン接種が進んだことで鎮静化が見られた新型コロナウイルスに関して、変異株の感染拡大が見られ、米中間に加えウクライナ情勢の緊張も高まりました。また、世界的なコンテナ不足、資源・エネルギー価格の高騰は依然として収束の兆しが見えておらず、世界経済は不透明感が一層強まりました。一方、世界半導体市場は、一部で物流面を含めサプライチェーンの混乱がみられたものの、生活様式の変化とそれに伴う情報通信の高度化に対応する最先端半導体デバイスの強い需要と自動車向け等の従来型半導体デバイスの需要回復が継続し、市況は堅調に推移しました。

こうした状況下、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高38,654百万円（前年同期比24.2%増）、営業利益9,473百万円（前年同期比59.5%増）、経常利益9,749百万円（前年同期比64.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益7,270百万円（前年同期比62.1%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

日本につきましては、最先端半導体デバイス向けCMP製品及びシリコンウェハー向け製品の販売が増加したことにより、売上高は24,087百万円（前年同期比32.8%増）、セグメント利益（営業利益）は売上増加に加え製品構成の良化により8,545百万円（前年同期比53.8%増）となりました。

北米につきましては、CMP製品及びシリコンウェハー向け製品の販売が増加したことにより、売上高は4,659百万円（前年同期比9.9%増）、セグメント利益（営業利益）は製品構成の良化により477百万円（前年同期比23.1%増）となりました。

アジアにつきましては、最先端ロジックデバイス向けCMP製品の販売が好調に推移したことから、売上高は8,646百万円（前年同期比13.8%増）、セグメント利益（営業利益）は1,994百万円（前年同期比24.6%増）となりました。

欧州につきましては、CMP製品の販売増加により、売上高は1,261百万円（前年同期比11.7%増）、セグメント利益（営業利益）は141百万円（前年同期比14.2%増）となりました。

主な用途別売上の実績は、次のとおりであります。

シリコンウェハー向け製品につきましては、半導体業界の高い稼働に支えられ、ラッピング材の売上高は4,694百万円（前年同期比40.6%増）、ポリシング材の売上高は9,069百万円（前年同期比29.2%増）となりました。

CMP向け製品につきましては、ロジック、メモリ向けともに需要は好調に推移し、売上高は18,442百万円（前年同期比23.2%増）となりました。

ハードディスク向け製品につきましては、SSD（ソリッドステート・ドライブ）への置き換え及び一部顧客の事業撤退に伴う生産終了の影響により、売上高は1,285百万円（前年同期比8.9%減）となりました。

非半導体関連の一般工業用研磨材につきましては、自動車及び産業機械向け需要の回復もみられ、売上高は3,268百万円（前年同期比20.3%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産総額は、前連結会計年度末に比べ、5,901百万円増加し、71,674百万円となりました。これは、投資有価証券が771百万円減少したものの、有価証券が3,000百万円、受取手形及び売掛金が2,556百万円それぞれ増加したこと等によるものです。

負債総額は、前連結会計年度末に比べ、1,636百万円増加し、11,321百万円となりました。これは、賞与引当金が772百万円減少したものの、買掛金が883百万円、流動負債のその他が683百万円、株式給付引当金が507百万円それぞれ増加したこと等によるものです。

また、純資産は前連結会計年度末に比べ、4,264百万円増加し、60,353百万円となりました。これは、自己株式が1,305百万円増加したものの、利益剰余金が3,515百万円、資本剰余金が1,308百万円、為替換算調整勘定が627百万円それぞれ増加したこと等によるものです。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間において、最先端半導体デバイス向けCMP製品及びシリコンウェハー向け製品の販売が増加したことから、売上高及び利益が予想を上回る結果となりました。最近の業績動向及び原材料価格や輸送価格の動向を鑑み、2021年11月4日に公表した2022年3月期通期業績予想を修正いたします。

詳細につきましては、本日付で別途開示しております「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	29,424	28,750
受取手形及び売掛金	9,098	11,654
有価証券	1,900	4,900
商品及び製品	4,048	4,545
仕掛品	999	1,015
原材料及び貯蔵品	2,278	3,203
その他	231	494
貸倒引当金	△13	△17
流動資産合計	47,967	54,547
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,553	6,430
その他(純額)	7,022	7,478
有形固定資産合計	13,575	13,909
無形固定資産		
	440	376
投資その他の資産		
投資有価証券	2,562	1,790
繰延税金資産	1,117	930
その他	119	128
貸倒引当金	△9	△9
投資その他の資産合計	3,789	2,841
固定資産合計	17,806	17,127
資産合計	65,773	71,674

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,880	3,764
未払法人税等	1,274	1,387
賞与引当金	1,438	666
役員賞与引当金	—	69
株式給付引当金	—	794
その他	2,714	3,398
流動負債合計	8,309	10,081
固定負債		
繰延税金負債	0	4
退職給付に係る負債	901	897
株式給付引当金	329	43
その他	144	294
固定負債合計	1,375	1,239
負債合計	9,684	11,321
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,753	4,753
資本剰余金	5,570	6,878
利益剰余金	50,303	53,819
自己株式	△5,448	△6,753
株主資本合計	55,179	58,697
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	321	423
為替換算調整勘定	685	1,313
退職給付に係る調整累計額	△97	△80
その他の包括利益累計額合計	908	1,655
純資産合計	56,088	60,353
負債純資産合計	65,773	71,674

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	31,111	38,654
売上原価	16,847	19,929
売上総利益	14,263	18,725
販売費及び一般管理費	8,323	9,251
営業利益	5,939	9,473
営業外収益		
受取利息	56	38
受取配当金	30	31
為替差益	—	38
固定資産売却益	1	81
その他	102	117
営業外収益合計	190	307
営業外費用		
支払利息	3	4
為替差損	179	—
その他	14	26
営業外費用合計	197	31
経常利益	5,932	9,749
税金等調整前四半期純利益	5,932	9,749
法人税、住民税及び事業税	1,355	2,339
法人税等調整額	91	139
法人税等合計	1,446	2,479
四半期純利益	4,485	7,270
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,485	7,270

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	4,485	7,270
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	125	102
為替換算調整勘定	△86	627
退職給付に係る調整額	19	17
その他の包括利益合計	58	747
四半期包括利益	4,543	8,017
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,543	8,017

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年11月4日開催の取締役会決議に基づき、業績連動型株式報酬制度の追加信託として、株式給付信託(BBT)及び株式給付信託(J-E SOP)の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)に対し、第三者割当により自己株式を処分いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が1,308百万円、自己株式が1,305百万円それぞれ増加し、当第3四半期連結会計期間末における残高は資本剰余金が6,878百万円、自己株式が△6,753百万円となっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の当期首残高へ与える影響はありません。

また、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響もありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。当該会計基準等の適用が四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	日本	北米	アジア	欧州	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高							
顧客との契約から生 じる収益	18,144	4,241	7,596	1,129	31,111	—	31,111
外部顧客への売上高	18,144	4,241	7,596	1,129	31,111	—	31,111
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,907	803	176	—	6,888	△6,888	—
計	24,052	5,044	7,772	1,129	37,999	△6,888	31,111
セグメント利益	5,555	387	1,600	124	7,667	△1,728	5,939

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,728百万円は、セグメント間取引消去4百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,529百万円及び棚卸資産の調整額△203百万円であります。全社費用の主なものは、当社本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他の源泉から生じる収益の額に重要性がないことから、顧客との契約から生じる収益と区分して表示しておりません。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	日本	北米	アジア	欧州	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高							
顧客との契約から生 じる収益	24,087	4,659	8,646	1,261	38,654	—	38,654
外部顧客への売上高	24,087	4,659	8,646	1,261	38,654	—	38,654
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,197	927	215	—	7,341	△7,341	—
計	30,284	5,587	8,862	1,261	45,996	△7,341	38,654
セグメント利益	8,545	477	1,994	141	11,159	△1,685	9,473

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,685百万円は、セグメント間取引消去7百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,614百万円及び棚卸資産の調整額△77百万円であります。全社費用の主なものは、当社本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他の源泉から生じる収益の額に重要性がないことから、顧客との契約から生じる収益と区分して表示しておりません。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。